

行政 トピックス



教育に福祉の現場取り入れ

—平成25年度次世代の
担い手育成事業—

当事業は、次世代を担う子どもたちが、福祉の現場で働く人の目線での仕事を体験し、将来の福祉の現場を担う人材を育成することをねらいとし、京都市内9つの小・中学校で実施されました。南



▲施設で活動する児童(長生園)



▲多くの人の前で発表する児童

丹市では、7つの福祉施設の協力のもと、モデル校として園部小学校で取り組みが行われ、児童らは、今年4月から福祉の現状について勉強を重ね、福祉施設の職員の方の仕事のやり甲斐や苦勞について取材し、実際に一日職場体験をするなど、福祉の現場を肌で感じました。12月3日には、福祉施設の職員の方をはじめ、多くの方が出席する中、児童らは活動内容とそこで感じたことを自分たちの言葉で一生涯発表していました。園部小学校の後藤昌則(ごとうまさのり)教頭は、「児童は、今日発表した以上に多くのことを感じてくれたようです。これから生きていく上でとても良い糧となったと思います」と振り返っておられました。

連携深め、地域の活性化を

—明治国際医療大学との
連携協力包括協定調印式—

11月25日、市と明治国際医療大学は、地域の活性化に向けた包括協定を結びました。協定書には、保健・医療・福祉の充実、まちづくり、地域の安心・安全、人材育成などの項目が盛り込まれ、市と大学が連携をとりながら地域の課題解決や活性化に取り組むこととされています。調印に際し、岩井直躬(なほみ)学長は「双方方向の連携が深まることを願っており、市とともに『まちをつくる』ということに協力したい」と話されました。



▲協定書に署名・捺印する佐々木市長と岩井学長
(市役所3号庁舎2階第4会議室)



▲献花し追悼と感謝の意を表す参列者

次の世代に平和を引き継ぐ

—平成25年度

南丹市戦没者追悼式—

10月30日、平成25年度南丹市戦没者追悼式をスプリングスひよし体育館で開催しました。

遺族約350人と関係者の参列のもと、先の大戦において戦場や職場に殉じた1886人の市内戦没者に対し、心から追悼とともに献花を行い、郷土の恒久平和と戦争の悲惨さを次の世代に語り継ぐことを誓いました。